

岡崎市議会議長 様

支出番号

議員名

蜂須賀 喜久好



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政務活動旅行報告書

令和元年11月13日提出

活動年月日	令和元年7月28日(日)～令和元年7月31日(水)	
氏名	蜂須賀 喜久好	
用務先 及び 内容	1	用務先 福島県 会津若松市
	7月28日	内容 会津若松市歴史資料センター「まなべこ」について
	2	用務先 福島県 会津若松市
	7月29日	内容 会津若松戊辰150周年記念事業・鶴ヶ城の復元等について
	3	用務先 岩手県 盛岡市
	7月30日	内容 コンベンション施設・支援施策について
	4	用務先 青森県 青森市
	7月31日	内容 森林行政・第6次産業化について
備考		



# 政策調査報告書

報告者：蜂須賀 喜久好

視察日	令和1年7月28日(日)
視察内容	会津若松市歴史資料センター(まなべこ)について
視察者	蜂須賀喜久好

今回の調査は市民の学習の場福島県会津市歴史資料センターの調査に伺いました

## 施設の概要、事業内容

- 1、会津若松戊辰戦争150年記念事業と観光行政との連携。
- 2、地図、絵図、出土品、の展示
- 3、学習コーナーの場、利用、市民の評価、要望について

### <基本理念>

- ・先人に憧れ、郷土に誇りを持つ学びの場

会津若松市の歴史や文化に親しみ、学べる施設として先人や郷土に対する憧れ、誇りを育みます。

- ・教育旅行生や観光客の利用も視野に入れ、会津若松市の歴史や文化を分かりやすく情報発信し、魅力を図る。



### ・展示方針

- ・歴史や文化を楽しく学べる展示
- ・会津若松の歴史の流れが理解できる工夫のある展示
- ・女性や若者の視点に立った展示
- ・県立博物館や天守閣と差別化した展示
- ・実物を最大限に生かした展示

### ・展示

- ・地図コーナー、年表コーナー、先人コーナー、触れるコーナー、学習コーナー

### 取組について

小学生を対象とした講座「まなべこ応援隊歴史文化講座」を年に4回開催している。

郷土学習として6年生全員がまなべこツアーとして来館し指導員講習会の一環として歴史を学ぶ取組を行っている、また視察旅行で訪れる学校が139校、県外55%となっている。郡山女子短期大学、日本大学と企画展示や歴史文化講座を共同で開催している。

### 課題と今後の方向性

- ・次世代のこどもに会津の文化の継承重要

- ・市内の児童、教育旅行生の来館への取組の強化
- ・管内業務を行うスタッフの雇用が少なく、まなべこツアーや、修学旅行が集中する5月から7月の繁忙期にかけては人員不足が顕著、増員の検討が必要

<本市への提言>

本市においても各小学校において地域の歴史、偉人、文化を教育の中で取組われているが会津若松市は郷土愛、人間教育を学校の教育の中に強く求めているのに感銘しました。教育は直角的に効果は見えないが、学校が腰を据えて心の教育を行えば、岡崎市の発展にもつながる、本市にも教育施設のより一層の活用を望む。



## 政策調査報告書

報告者：蜂須賀 喜久好

視察日	令和1年7月29日(月)
視察内容	会津若松戊辰戦争150周年記念事業、鶴ヶ城復元について
視察者	蜂須賀喜久好、山崎泰信

7月28日に引き続き会津若松市の調査を行いました。調査項目は会津若松戊辰戦争150周年記念事業・鶴ヶ城の復元についてです。

### <調査項目>

- (1) 会津若松戊辰戦争150周年記念事業において鶴ヶ城の復元の経緯
- (2) 事業内容、事業を推進する組織体制について
- (3) 鶴ヶ城の発掘調査について

(1)戊辰戦争から150年を節目の年として幕末から会津が辿ってきた歴史的意義を再認識し先人達の歩みを称え、近日もなお息づく、武家文化を伝える必要がある。会津にとって戊辰戦争の歴史はそこに生きた藩士の生き様、会津独特の武士道《義》という言葉で言い継がれている。また戊辰戦争後、爪痕が残った街並みも復活の道を辿り会津の貴重な財産を将来に渡していく事目的としている。鶴ヶ城の復元には150年前の構造図が現存し、現在の天守閣が築城して53年が経過して、平成20年9月に「天守閣再建50周年に向けた史跡若松城の整備計画について天守閣外壁の塗り替え、赤瓦の葺き替え」が平成23年に完成した。しかし市民の中から会津のシンボルとして元々の木造天守閣の再興の遺構の復元等整備をとって150年祭に向け検討会スタートした。

#### ・整備の前提条件、

現況の遺構を保存し、積極的に復元を図る。整備にあたっては史実に基づいた整備を行う為の重要な資料となる古絵図、古文書、古写真等の資料の収集、研究を行うと共に、本丸、北出丸、西出丸の遺構確認調査に引きつづき行い、学術上の確証得ていく事とした。

#### ・整備のための時代設定

城郭として機能していた江戸時代末期とする。

#### ・復元手法

史跡の歴史的価値をより明確にするため江戸時代末期に合わせた状態で史実に基づき復元を行う。

#### ・実行委員会



顧問；福島県知事 会長：会津若松市長 副会長：会津若松商工会議所会頭

幹事：会津若松観光ビューロー 会津まつり協会 会津青年会議所  
その他・記念事業部会・誘客事業部会等の体制としている。

・史跡復元調査

西大手門： 城下絵図あり

西出丸西北櫓・西南櫓： 比較的繊細な写真存在する。絵図あり。

大腰掛け・土塁： 発掘により規模は確認済み。

内讃岐門石垣・内讃岐門： 城下絵図あり。等資料が充実している。

#### <本市への提言>

本市の岡崎城は明治6年廃藩置県により天守閣が解体され、昭和34年に現在の天守閣が築城されたが、昭和20年7月の岡崎空襲より古書物が焼失し会津鶴ヶ城の様に完全な復元が難しいとされている。反面会津若松市は一番の課題は人口減少による税収不足、今でもすぐに着手したいが今後50年掛けて実現に向け計画している。

本市が観光都市を目指すならば他市にない財産である岡崎城整備は必須要件である。財政の面において会津に比較して十分な財政力であり古文書の調査を行い市民の誇りとなる天守閣建設をじっくりと着実検討すべきである。



# 政策調査報告書

報告者：蜂須賀 喜久好

視察日	令和1年7月30日(火)
視察内容	盛岡コンベンション協会について
視察者	蜂須賀喜久好

盛岡市のコンベンション施設の利用状況と協会の現状についてマイルスも含め調査してまいりました。

### <調査内容>

- ・盛岡コンベンション施設について
- ・コンベンション施設の運営手法について
- ・行政との連携について
- ・各種支援体制について以上です。



盛岡市は仙台市に次ぐ東北第2位の都市、人口297000人、人口減少が毎年500人減少新幹線の経済効果を見込みコンベンションもつ施設が駅周辺に4施設あるが新幹線が北海道まで開通した事により、仙台と北海道の通過都市の傾向がでてきた。

- ・盛岡コンベンション協会が運営マリオス

盛岡駅徒歩2分の好立地に有る18階にある。最大450名収容の会議室を備えている。館内の市民文化ホールをはじめ大規模なコンベンションも可能。市内のホテル28施設・5800人収容、旅館20施設・2700人収容、合計8500人、マイルスに対応

### ・連携

・市役所駅庁舎が平成31年1月4日開設、他県からの大会等の訪問客対応を図る。

### ・MICE開催助成制度

盛岡開催全国大会：200人以上・国際大会：100人以上対象

- ・歓迎おもてなし助成金

盛岡市で開催される会議が2日以上、参加者数100人以上・に対し開催に伴うレセプション等におけるアトラクションの派遣費出演料の半額、講師料半額補助

- ・参加者数の交付金

・200人~299人：20万円・300人~399人：30万円・400人~499人：40万円

- ・500人~599人：50万円、随時100人増加ごとに10万円増・

- ・500人増加：50万円増・最大5000人：500万円交付金が出る。

交通費支給

参加人数に対して10%支給・毎年2400万円支援している。

2019年度全国大会・国際大会・26件の支援を計画している。

<本市への提言>

本市も2023年春開業を予定している、ホール機能1200㎡・会議、式典、研修、400~500㎡300人~500人対応。レセプション、懇親会、食事会等600㎡~700㎡、円卓300人、立食500人

ホール使用した場合、会議等1000人、又は立食800人。

ホテル機能(民間)上質なおもてなし機能を有す、コンベンション施設がオープンする。盛岡市は東京からのマイス、来客が仙台市に引っ張られ大きく苦戦をしいられている。愛知県は名古屋の知名度が高く地方都市の岡崎市は盛岡市と同じ立場に感じる。新幹線駅が無い本市は先進市の研究を今から行う必要がある。



## 政策調査報告書

報告者：蜂須賀 喜久好

視察日	平成 31 年 7 月 31 日 (水)
視察内容	森林行政・第 6 次産業について
視察者	蜂須賀喜久好、山崎泰信

住宅建築用木材を代表する杉・檜・ヒバの木がありますが、ヒバの木が日本において一番の生息地、生産地の青森県青森市に森林計画と地元木材の利用促進について調査してまいりました。

### <概要>

日本の国土の 65% は審理でその森林の 40% はスギ・ヒノキなど針葉樹などの人工林です。木曾ヒノキ・秋田杉と並んで日本三大美林に数えられる青森ヒバは幕政の時代にヒバ山を厳しく統地してきたまま残っている。その面積は 61000ha、木材の備蓄量は木曾ヒノキの 3 倍秋田スギの 7 倍もあると言われている。ヒバの木のほとんどは青森県内にあり。スギは日本一長寿の木樹令 2000~3000 年と言われ日本で一番多く植えられている事は周知のとりである。ヒノキは日本書紀にスギ、クスノキは船にヒノキは宮殿にと書かれているとおり、ヒノキは古くから宮殿建築に最適で最高の材としているばかりか日本住宅代名詞となっており、ヒノキの由来は最高のものを表す「日」とった「日の木」という説があるほどである。

今回の調査の青森ヒバは香木ともいわれヒノキの 5 倍もあり、雑菌や虫を寄せ付けない抗菌・防虫・防ダニ効果がヒノキの 10 倍ものヒノキチオールが含まれている。

住まいにおいても総ヒノキ造りの家に勝とも劣らない耐久性と木肌が美しく、平泉の中尊寺に使用され 900 年前建てられたが、今なおその姿を営々と残している。また多くの神社・仏閣が建立されている。800 年まえの大津波によって埋もれた木がわずか 2 cm しか腐朽してなかった、腐敗しない事は建築業者なら誰でも知っている。

### ・木材の利用計画は

青森ヒバは人工林でなく天然林で育った木材であり、現在流通しているものは 250 年~300 年もので、屋久杉に匹敵する希少木材であるため計画的な伐採を行い青森県・青森市の大きな財産としている。杉は 40 年から伐採、ヒノキは 60 年から伐採ヒバは 100 年から伐採、一度伐採したら 200 年は伐採出来





ない。天然の木魅力のPR不足、県民性が仇をなしている

#### <6次産業化について>

・地域の食品加工業者や流通業者と互いの強みを生かした農商工連携による6次産業化にむけた初期段階の取組を推進するため、青森県・地域の6次産業化スタートアップ支援事業及び青森県農山漁村女性起業育成事業・フォローアップ事業を実施する農林水産業者等を支援

##### ・補助対象経費

委託加工料、旅費、会議費、資料印刷費、通信運搬費、検査分析費、パンフレット費、ラベル費、専門家指導料等

・補助金額補助対象経費の25%以内、補助対象の上限25万円としている。

#### 対象者

農工商連携による地域6次産業化に向けた初期段階の取組を支援する。

- ・地域の6次産業化スタートアップ支援事業
- ・機械施設補助事業
- ・農山漁村女性起業育成事業

補助対象経費の25%・上限250万円

#### 実績

・平成28年度 交付件数3件・交付額442万円

農産物を活用したベーグル等の加工販売(規格外農産物加工)

・平成29年度 交付件数3件・交付額546万円

規格外トマトを活用した(トマト酢)の開発

りんご加工品の開発(市外事業者連携)ふじ

・平成30年度 交付件数1件・交付額197万円

規格外トマトを活用した加工品(トマト味噌の開発)

#### <本市への提言>

4月の行政調査において長野市6次産業化に向けた取組について初期段階の取組の行政の支援が岡崎市と比較して10倍 今回の調査の青森市は5倍 本市は農業の振興、6次産業化に向けた取組を声高らかに挙げているが実際の支援はお粗末極まりない。本気で農業支援を考えるならば、職員は井戸の蛙ならず、もっと自己研鑽に努めなくてはいけない。強く要望を行う。